

## 第2回パラフットボールボランティア研修 参加者13人

### 【アイスブレイク】

○インパルス

○資料

・読み合わせ、内容を理解する。

○やってみよう！

感染症対応のため、手を繋げない。

それでは、音で！

#### I グループ

離れて丸くなって、隣の人のパチンと拍手する音を聴いたら、隣の人が拍手、伝えていきます。

今度は、はじめの人が、リズムカルに拍手をします。同じリズムを真似て伝えます。最後まで伝わったら、リズムを変えてまた伝えていきます。

次は、目を閉じてと伝えていきます。思わず笑顔になりました。

#### II グループ

離れて丸くなって、体の一部をたたいて、伝えていきます。

今度は、よく見て、皆と違う身体の部位で伝えていきます。頭、お腹、足、顔みんなよく見て考えています。

今度は、目を閉じて身体の部位で、前の人がどこで音を出したかよく聞きます。最初に戻ったら反対周りです。

※振り返り

- ・楽しくできるので指導しているチームでも使ってみたい。
- ・体験会等でも、気軽にできるので良い。
- ・集中するという場面を作りだせるのでやってみたい。
- ・多様な障害があっても気軽に取り組める。

### 【アンプティサッカー・ガネーシャ静岡 AFC】

- ・講演者の紹介 ガネーシャ静岡 AFC 原代表と若杉選手
- ・アンプティサッカーの紹介

切断者のサッカー、FP は、足の切断、GK は手の切断。医療用のクラッチを使ってサッカー。

全国で100人強の選手と9チームが活動、静岡ではガネーシャ静岡 AFC が存在。

- ・ルールの紹介

ピッチの大きさ、ゴールキーパーの制限、キックイン等

- ・ガネーシャ静岡の紹介

世界大会に出場する梅原、長野、若杉選手の応援から、チーム立ち上げまで。

静岡を中心に、静岡、愛知、岐阜の選手で構成

- ・若杉選手の話

○事故前後のこと。仕事のこと。

○事故にあってから、切断までの経緯。

○アンプティサッカーとの出会い

○ガネーシャ静岡の選手との出会い、ボランティアの出会い、モチベーションについて

○アンプティサッカーで今後目指すもの まだ世界へ

- ・ボランティアについて

○身体のケア 脱水予防のために、マッサージ

○環境 運搬、ともに活動、応援、プレー以外を支える

・質問

○普段の義足について

義足について 半ズボンを履けるようになるまで手術から10年。

○女子のアンプティはありますか。

混合、フィジカルが違うが。小学生もやっている。

○国内競技者、チーム、大会

9チーム試合に出てくるのは7チーム 人は固定されている。

○危険性

身体大変だけど生きがい。

○サッカーの体験は。

サッカー少年からサッカー青年。生涯スポーツのつもり。13年間ブランクで。アンプティに出合って6年。

○どの程度走る？

片足だけに負荷ではない。腰、腕、体、全体のバランス。維持するためにトレーニングをする。概ね3km～5km。

上半身は意識して鍛えている。

【熱中症について】

公益財団法人日本スポーツ協会（JSPO）の動画と大塚製薬提供のスポーツ活動中の熱中症予防ガイドブックを使用。

『体温調整の仕組みと熱中症発生のメカニズム』

『身体冷却法・予防編』

『熱中症が疑われるときの対応法』

『身体冷却法・救急処置編』 を視聴。

振り返り

・身体の中から、外からが理解できた。

・休みにせっかく集まって練習している。貴重な時間なので、夢中になりやすい。周りからとにかく気を付けさせたい。

・運動前、運動中、ハーフタイム、運動後の意識をしたい。練習の終わった後も、自分で主体的にケアできるようにしていきたい。選手も学ぶ機会を作りたい。

・自分の知識が、古いものだということが分かった。常にブラッシュアップしたい。

・WBGTについて、きちんと頭に入れておきたい。

・WBGTの数値のみにこだわるだけでなく、選手の様子も見ながら常に配慮していきたい。

全体のまとめから

○スタッフも熱中症以外も学んでチームに活かしたい。

○サポートのクオリティも上げていきたい。

○皆が対応できるようにすることが大切。

○7月27日（月）午後10時NHK逆転人生を見てください。（9月11日の心肺蘇生担当者から）

○管理の大切さに気付いた。

○切断者という言葉でなく、サッカーのジャンルとしてみられといいな。

○選手にも伝えるものを作りたい。←出来たら皆で共有したい。